

宮平観光に公庫出資

八重山振興へ8千万円

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は6日、石垣市でホテル経営などを手掛ける宮平観光（親盛一功社長）に、8千万円を出資したと発表した。出資は9月27日付。同社の資本（資本金、資本準備金の合計）は自社による増資分も含め2億円となった。ホテルの新築・改築などの新たな事業展開に向け、増資による経営基盤の強化を図る。

宮平観光は1953年創業。石垣市で「南の美ら花ホテルミヤヒラ」を経営。ホテルの老朽化に伴い、2015年に東館（87室）を全面改装。地上9階・95室の新館建設を

進め、西館（71室）の建て替えも検討中。

グループ会社もリネンサービスやマリントレジャーなどを展開、八重山圏域の観光振興に貢献している。

同公庫の「リーディング産業支援出資」。14年の新設から6件目。離島の企業への出資は初、観光関連は4件となった。

沖縄公庫

宮平観光に8000万円出資

離島初リーディング産業支援

【那覇】沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は6日、2016年度リーディング産業支援として、石垣市で「南の美ら花ホテルミヤヒラ」を運営する宮平観光（株）（親盛一功代表取締役社長）に8000万円の出資を行ったと発表した。離島地域の企業への出資は初めて。これにより同社の総資本の額は、自己調達資金などと合わせて2億円となった。新館の建設、旧館の建て替えに大きく動くことになる。

民間投融資の誘導期待

同社は1953年の創館を2015年に全面リニューアルし、現在は19階、95室の建設を進めて

いる。新館建設後に西館の建て替えも計画している。県の「沖縄21世紀ビジョン基本計画」や6月に国交大臣が認定した「Be・O

kinawa琉球列島周遊ルートでは、石垣港を主要ゲートウェイ施設の一つとして外国人受け入れ環境整備を推進するとしており、同社の取り組みが離島の特徴を生かした産業振興に寄与するものと評価された。公庫は「財務基盤強化などにより、ホテル施設整備に向けた民間投融資の誘導を期待する」としている。

支援事業は、観光やIT、国際物流など沖縄のリーディング産業に関連する企業の経営基盤を強化する目的で14年度からスタート。公庫の出資額と合わせた総資本額が1億円以上になる企業などを対象に、所

有資金の50%以内を限度に出資するもので、県内では6社目の出資となる。

沖繩公庫が産業支援

宮平観光に8千万出資

沖繩振興開発金融公庫（川上好久理事長）は6日午後、那覇市の本店で記者会見を開き、2014年4月に新設した「沖繩リーディング産業支

援」で、石垣市の宮平観光株式会社（親盛一功社長）に対し8千万円の出資を9月27日に実行したことを発表した。

同社は、1953年に創業し、業歴63年を数える老舗企業で、離島観光の拠点として数多くの観光客を受け入れてきたことや、同社を中核に「美ら花グループ」（6社）を形成しており、リネン

サービスやマリンスジャーなどの観光関連事業を幅広く展開し、長年にわたる八重山圏域の観光振興に貢献していることが評価された。

また「南の美ら花ホテルミヤヒラ」の東館を2015年に全面リニューアルし、2018年の開業に向けて新館の建設に取り組んでいる。

沖繩公庫はこれまで観光業3社、ソフトウェア開発業2社に対し出資をしており、今回で6社目の出資となる。離島企業への出資は初となり、今後は国際物流関連企業も対象とし支援を拡大したい考え。会見に出席した融資第一部産業開発出資班の崎山美香課長は「同制度を生かして、八重山から100年企業へと成長してもらいたい」と期待した。

宮平観光に8000万円 沖縄公庫が出資

リーディング産業支援

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は6日、リーディング産業支援出資として、石垣市の「南の美ら花ホテルミヤヒラ」を運営する宮平観光（親盛一功社長）に8千万円の出資を実行したと発表した。同出資制度で離島企業への出資は初めて。宮平観光はホテル敷地内に地上9階建て全95室の新館の建設を進めており、経営基盤を

強化することで事業拡大を図る。

新館は2018年7月に開業予定。新館の運営が安定した後、現在稼働中の西館の建て替えも計画している。新館建設と共に老朽化した施設をリニューアルすることで、訪日外国人旅行者を含めて観光客のさらなる取り込みを目指す。

リーディング産業支援出資は14年度に始まった制度で、沖縄の産業振興に貢献する企業の成長を金融支援する。これまでにザ・テラスホテルズやレキサスなど5社が出資を受けている。